

一九七七年二月一日第三種郵便物認可

発行所 社会通信社

発行人 滝野 忠

e-mail: shakatsushin@nifty.com

東京都渋谷区本町六丁目二八の二コーポル幡ヶ谷九〇四 電話(03)3337714649

FAX(03)32299153667

振替 〇〇一〇〇一九一五八四三一 労金 中央労金本店 No.1154163

購読料 月額700円 6カ月前納制

〈もくじ〉

■巻頭言■

ブレーキの機能

佐賀 章男……………2

民主主義とほど遠い日本

西村 昭……………3

―とくにひどい人権侵害―

労組組織率三四年ぶりに上昇……………4

―アメリカはマイナスに―

一日もはやい 夢ある解決……………5

―2・16集会での家族の訴え―

いまこそ解決を！……………6

―J.R不採用問題 解決へ！2・16集会「アピール」―

解決が見えてきた……………6

―J.R不採用問題での最近の動き―

譲れない原則 伝え続けたい……………8

―国鉄闘争に思う―

普天間飛行場の閉鎖・全面返還を求める……………9

―米海兵隊の長崎県内への移駐・移転を許さない共同声明―

原発に膨大な国家資金……………10

―東海村を視察―

杉森 ひろゆき……………10

大地震とハイチ

編集部……………11

もう一歩前に進んで行動……………12

西本 章……………12

読者からのおたより……………13

旬刊 社会通信

NO. 1067

二〇一〇年三月一日号

二〇一〇年三月一日発行
(毎月一日・一五日二回発行)

私は、自動車二級整備士の免状を持っている
自動車を整備する時の原則は

「エンジンは多少調子が悪くても大丈夫。

だが、ブレーキのきかない車は、危険だから絶対走らせるな」

ということとは、自動車や電車の整備に関係する人なら誰でも知っていること

然し、それは自動車や電車の問題だけだろうか？

最近「国際・資本」とか「国家・権力」という化け物たちが

破つてはならない鎖を断ち切つて暴れ始めようとしている

このような、化け物たちが破つてはならない鎖を断ち切つて

暴れようとするのを抑えるのが労働運動や社会主義の機能

なのに

最近では労働運動や社会主義の機能が失われている

そんな、ブレーキの機能が失われている危険な社会の中で

必死にブレーキの機能を展開しているのが

私鉄の労働運動だ

理論学習。

雇用の権利を守り、労働条件の合理化阻止のため

全国的闘争団と連帯、統一行動

仲間たちを弾圧する、企業や資本に対する抗議行動

反戦・平和・反核闘争等

彫刻家ミケランジェロの言葉に

「大理石でヴィーナス（女神）を作るのではない

大理石の中にあるヴィーナスを彫おこし、呼びさ（覚）ますのだ」と

私鉄の仲間たちの闘いは、労働運動を創るのでなく

社会の中にある労働運動の機能を掘り起こし、呼び覚ますのだ

この闘いは容易ではないのに継承されている

私鉄の活動も、目に見えない影から支えている

素敵な仲間たちの存在を見逃すまい

（佐賀 章男）

民主主義とほど遠い日本

―とくにひどい人権侵害―

近代民主主義の根幹は国民主権への法治主義と人権保障であり、日本国憲法も天皇制の規定など問題はあるにしても、最大の人権侵害をもたらす戦争・軍隊の否定を加えて三権分立とともにそれらは規定されている。

しかし規定されていることと実現しているかどうかは別の問題であり、現在は多くの場面で民主主義は実現していない。

まず法治主義はいろんなところで無視されている。例えば後期高齢者保険制度の本質をごまかすために「長寿保険」などとふざけた名称を行政は使っているが、この名称は法律に何の規定もない。根拠を広域連合に問い合わせたところ、なんと内閣からの行政指導だとのこと、あきれるほかはない。悪名高い日の丸・君が代強制の根拠となっている一〇・二三通達も行政指導である。行政指導が法律に変わって大手を振って横行している。

そもそも憲法を始めとする国会で作った法律は国―行政が守るものである。ある学校の始業式で偉い人が生徒に向かって「日本は法治主義の国家だから皆さんは法律をまもらなくてはけません」と訓示したのには驚いた。

国民は法律を守るのではない、正義、道義、常識、良心：に従って行動するのである。その結果が法律ではどうなるかを行政や司法が法律を守って判断するのである。この判断が日本では極めて怪しいが。

教員も教員として行動している時はその職務上関連法規を守らなければならないが、その中には当然憲法も含まれる。憲法違反の行政指導など守る必要はない。

また公務員も一般国民として行動している時は一般の法律を守ることではない。一般国民は法律などほとんど知らないのだから法律を守れというのは土台無理な話だし守る必要もない。ほとんどの国民は殺人などしないがこれは別に刑法を守っているのではない。殺人罪の条項も知らない人がほとんどである。殺人をしたくないからしないだけの話である。たまにいろんな理由から殺人をするものがあるが、その時、行政や司法が刑法を守って判断を下し処置するのである。その判断が足利事件のように間違っていたら国民はたまったものではない。民主主義などどこにもないことになる。

三権分立のなかの司法は人権を守る上でも最後の砦である。これが行政追従では人権擁護にほとんど役立たない。国労組合員の人権侵害についてはどうであろうか。

三権分立については、国会は国権の最高機関と規定されているが、いまや内閣が国権の最高機関になっている。前は内閣不信任の時しか衆議院を解散できなかったのに今はいつでも解散できるように解釈を変えてしまった。トップの内閣がこれで末端の役人は行政指導―これで圧倒的に行政が立法に対して優位に立った。

以上のように日本には近代民主主義すら実現していない。特に人権侵害はひどい。私たちは絵に描いた餅の憲法を実働化させるようあらゆる場面でたたかわなくてはならない。

(西村 昭)

労組組織率三四年ぶりに上昇

ーアメリカはマイナスにー

労組組織率が三四年ぶりに前年を上回り一八・五%、(前年比プラス〇・四%)となった。労働界にとつて久しぶりの明るいニュースだ。手放しで喜べぬ。分母が減った結果でもあるからだ。

厚労省が〇九年一月二日公表した「〇九年組合基礎調査結果」では組合員数は一〇〇七万八千人(前年比プラス一万三千人)。その一方、雇用者数は五四五五万人で前年比一一〇万人の減。分子が若干増え、失業者三百万人超で分母が減ったことが、組織率上昇の因となった。

組合員数増加は民間企業、とりわけパートタイム労働者八万四千人増えたことによるもので、いわゆる正社員の組合員は増えていない。民間企業労働組合員数増は七万人だから、パート労働者とその穴を埋めたことになる。パート、非正規労働者を組織しているのはUIゼンセン同盟、ゆうメイト組織化でユニオン・ショップ協定締結を大方針とするJP労組であり、ほとんどの大企業労組は無関心が実態だ。

減少が目立つのが公務員労働者、三万二千人減とある。これは公務員削減、公務職場民営化によるものだ。ちなみに産業別の組織率は製造業二七五万三千人(二七・九%)、卸・小売業一四万八千人(二二%)、公務一〇〇万一千人(四三・四%)、建設九〇万九千人(二一・九%)、運輸・郵便八九万人(二二・三%)。

主要団体別組合員は連合六六八万七千人(前年比プラス六万四千)、全労連六四万七千人(前年比マイナス一万六千)、全労協一二万四千人(同マイナス四千)。連合トップ四はゼンセン一〇三万一千、自治労八六万三千、自動車七六万三千、電機六四万。全労連では自治労連一七万九千、日本医労連一四万四千。

未組織、非正社員組織化が労働組合の組織拡大の焦点とされた今、パート労働者の組合員は七〇万人で前年から八万四千人ふえ、全組合員に占める比率は過去最高の七%となった。

組織率減少は日本だけではない。すべての国の労働運動が直面する。アメリカの二〇一〇年一月の組織率は一二・三%、一五三〇万人で昨年より一%下がった。調査が開始された一九八三年は二〇・一%だからこの二七年間に八%弱下がったことになる。労働運動で深刻なのは民間の組織率が七・二%と極端に低いことだ。これにたいし公務員労働者は三七・四%である。産業別では運輸・公益二二・二%、電気通信一六・〇%、建設一四・五%にたいし極端に低いのが金融サービスの一・八%、公務員では地方公務員四三・三%がもつとも高く、職種別では教員、警察、消防職員である。

オバマが一月二九日におこなった一般教書で「雇用が最重要課題」としたことに、AFL・CIOは「われわれは雇用を欲している。オバマが二〇一〇年は雇用を第一の焦点とする必要があることは一〇〇%正しい」「国民は非常に苛立っており、怒っている。自ら選んだ指導者が国民のためになり、本当の変革をもたらすのを望んでいる」と述べた。

一日もはやい 夢ある解決

— 2 — 16 集会での家族の訴え —

昨年二月一六日、私は星稜会館での集会で、家族の切実な思いを訴えさせていただきました。出席されていた各政党の皆さんからは、この問題の早期解決に向けたご努力をいただけると言う、力強い決意が述べられ、私たち家族に勇気をいただきました。そして、当時の民主党鳩山幹事長の「二三年が二四年にならないよう努力していきたい」との言葉は、私たち家族にとつて明るい希望のもてる言葉でした。

あれから一年、政治が大きく変わり、今、鳩山総理大臣の下、JR不採用問題も解決に向けて大きく動き出すようになっていることが肌で感じられるようになって来ました。

しかし、この一年の間に、また六人の方が志半ばで亡くなられ、解決の日を見ずに亡くなった方は六〇人にもなっていました。

また、受験の時期を迎え、自分の子どもたちが家計を心配して進学を諦めたように、今年も進学を諦めた子どもたちがいるのではないか、私の父や夫の両親のように、心配をかけたままの親を、また何人も旅立たせてしまったのではないだろうかと思うと本当に心が痛みます。

もうこれ以上辛い思いをする人を増やしたくありません。本当に一日も早く、子どもたちや年老いた親を安心させてあげたいんです。

そして、年金を掛けられない年数も、また一年延びてしまいました。夫はまた元気に働くことが出来るのだろうか、老後はどうなるのだろうか、不安は大きくなるばかりです。

それでも、「もう少し頑張れば解決できるんだ」と、鳩山総理の言葉や二月、一月の集会での各政党の皆さんの決意を胸に刻んで、そして、皆さんの支えがあつてこの一年、生活は苦しくても頑張ることが出来ました。

決して贅沢は出来ないけれど、安心して生活できる喜びと、描いていた将来のささやかな夢を返してほしい。私たち家族の望みは、ただこれだけなんです。

何としても年度内に解決させてほしい。一日も早く元の生活を。そして、路頭に迷うことを考えずに過ごせる日々を取り戻したい。これが私たちの願いです。

志半ばで亡くなられた六〇名もの仲間や、元気なうちに解決の報告ができなかった親に、一日も早く良い報告をしたい。そして、いまだに心配をかけ続けている年若い人たち。進学を諦めた子どもたちや全国で私たちを応援いただいている皆さんと「苦しくて頑張ってきた本当に良かった」と、喜び合える解決を手にしたと思います。

集会にお集まりいただいた皆さん。

政府、鉄道・運輸機構が一日も早く解決を決断し、路頭に迷うことのない解決が図られるよう、さらにお力添えをいただきますよう心からお願ひし、家族からの訴えとさせていただきます。

(国労音威子府闘争団家族 杉山 智子)

いまこそ解決を！

— J R 不採用問題 解決へ！ 2・16集会「アピール」 —

本日、日比谷野外音楽堂で開催された「J R 不採用問題解決へ！ 2・16集会」は、政治解決への最終局面を開く、活気と決意に満ちた集会として、大きく成功しました。2月16日は、国労・全動労組合員など一〇四七名が労働組合の所属により採用差別され、解雇されてから二四年目になる日です。

被解雇者とその家族にとって、この二十数年の日々は、国鉄労働者としての仕事と誇りを奪われた屈辱・怒り、そして、生活の糧を失った生活苦とのたたかいの連続でした。多くの被解雇者が過労やストレスが重くのしかかる中で病に倒れ、六十名（二〇一〇・二・二現在）が解決の日を迎えることなく、この世を去りました。

こうした方々の無念の思い、被解雇者とその家族のねばり強いたたかいの積み重ね、この支えとなってきた多くの団体・個人のみなさまのご支援のもとで、J R 不採用問題は解決局面と言われる状況をつくり出してきました。

昨年の「J R 不採用問題の解決に向けた11・26集会」で、政権与党と野党の代表者は、「二十三年が二十四年にならないように各党が力をあわせて解決に全力を尽くす」と発言、十二月二十五日には、与党三党が鉄道・運輸機構に「話し合いを開始するよう」要請しています。

本年、一月十三日には、与党・政府・国土交通省が解決に向けた考え方を議論、一月二十五日に四者・四団体は、与党三党に「路頭に迷わない解決」要求の提出と説明を行いました。

また、一月十九日には、前原国土交通大臣が、記者からの質問に、「長年解決していない問題、一日も早い解決が望ましい。与党でいま、動かれているということでございますので、私の方に何らかの要請と要望があれば対処していきたい」とコメントし、一月二十七日、鉄道・運輸機構は四者・四団体の申し入れに対し、「政府・政治の判断には従う」と応えています。

いまこそ解決を！「四者・四団体」と本集会に結集された諸団体・個人のみなさま、全国でこのたたかいを支えていただいているみなさまとの強固な団結のもと、世論と運動を盛り上げ、納得できる解決「雇用・年金・解決金」を勝ち取るため力をあわせて奮闘しようではありませんか。

解決が見えてきた

— J R 不採用問題での最近の動き —

一、二〇〇九年一月二十五日、民主党は政府与党（社民党、国民新党）に呼びかけ、鉄道運輸機構に対して以下の要請をした。

「いわゆるJ R 不採用問題について、人道的観点から民主党、社会民主党、国民新党は、貴機構に対し以下の枠組みで本問題の速やかな解決のため努力することを要請する。

1、四者・四団体は、最高裁判決で示されたとおりJ R に法的責任がないことを確認する。

2、鉄道建設・運輸施設整備支援機構は、四者・四団体と和解に向けた話し合いを開始し、人道的観点から不採用者の雇用の場の確保、年金の取扱い、和解金について協議の場を設けること。

3、鉄道建設・運輸施設整備支援機構は、裁判所に四者・四団体と和解に向けた話し合いを開始することを伝えること。」

二、対応した石川理事長は「交渉テーブルを設置する考えはない」との頑なな態度に変わりなく、ただ三党からの申入れということでは「持ち帰らせてもらう」と引き取った。

三、一月三日、与党三党は国交省辻元副大臣（三日月政務官同席）に対し、一〇四七名問題解決に向けた要請・協議を行なった。この要請・協議がNHKニュースで「解決策の策定に向けて協議を始める」と報道された。通常国会が一月一八日スタートした。

四、一月九日、定例記者会見で国交省前原大臣は、一〇四七名問題での記者からの問いに、「与党でこれについて今動かれている。私の方に何らかの要請と要望があれば対処したい」との考えを示した。

五、一月二五日、与党三党（窓口）に対して、二〇〇八年民主党に示した「雇用・年金・解決金」の三項目からなる要望書の、さらに解りやすくしたものを提出。

六、一月二六日、しんぶん赤旗に共産党の穀田国対委員長、二比・紙面参議院議員が国土交通相に不採用問題で申入れをしたことがプレスされる。対応した三日月政務官は「私も鉄道員だったので、こういう立場にいるときに一歩でも二歩でも前に進めたい」「早期解決できるような出来る限りのことをしたい」と述べる。

七、一月二七日、四者・四団体は、与党三党からの要請（一月二五日）後初となる鉄道運輸機構に対する要請行動を行った。しかし、鉄道運輸機構は頑なな従前からの主張を繰り返すのみで、機構独自の「経営判断」は出来ない、「解決交渉テーブル」の設置は無理との判断をせざるを得ず、四者・四団体は鉄道運輸機構の不誠実な対応を非難し、今後の交渉は政府・政治と行うことを通告し要請行動は物別れに終わった。

八、一月二八日の参議院予算委員会で、公明党・弘友議員がJR不採用問題について「いろいろな経過はあるが人権問題として政治解決すべき」と迫ったのに対し、鳩山首相は「人道的な立場も勘案しながら必要な時には必要な行動をしていきたい」と応じている。

九、二月三日、与党三党などに対し、政治窓口プラス代理人で三項目要求の具体的な根拠などを説明。国鉄改革法23条の悪質性を解説。政治解決の必要性を訴える。

また、同日、四者・四団体は共同声明を出し鉄道運輸機構の不遜な対応を非難し、今後の交渉は政府・政治と行うことを伝え、与党三党などに協力を要請した。

十、二月四日、参議院決算委員会で社民党・又市議員が質問。「与党三党と公明党を中心にJR不採用問題の年度内解決に向けて努力を進めている。是非、積極的な受け止めを、総理のご見解を」と質したのに、鳩山首相は「人道的な立場から解決を急がなければならないと申ししてきました、政権を取った中でも、その思いを変えているつもりはない。今、努力が与党の中で始まったと、また、公明党さんにもご協力をいただき、また自民党さんにもご協力を頂きたいと、そのように思っている」「今年の一月二三日に、その与党三党が解決策をとりまとめるという」とになりました。是非しっかり、とりまとめていただいて、それを与党三党でありますから、政権の思いとして実現して解決をしてまいりたいと思います」と述べた。

十一、現在、与党三党で「解決案」づくりが進められている。

譲れない原則 伝え続けたい

― 国鉄闘争に思う ―

総てを奪われた日々

この闘いが始まって二三年の月日が流れた。「分割民営化」の際、青年部運動と一緒に頑張っていた国労の仲間九名は、全員が解雇され新会社に行けなくなった。その九名の仲間の中で、赤峰さんとは今も付き合いがある。そしてまだ、闘いは志半ばのまま、解決を見ないことも知っている。闘いのなかで、それぞれが抱える事情が闘い続けることを許さず、現在では二名になってしまったことも知っている。

この二三年の間に、当然なのか、仕組まれたのか、社会も労働組合もずいぶん様変わりしてしまった。私の所属する労働組合は、一八〇度方針を転換し組合文書の中から「闘う」という言葉は消えてしまった。その他の組合も似たり寄ったりである。また、私たちが赤峰さんたちと知り合った時のような、労働者相互の交流もなくなった。したがって「共闘」という概念も、労働組合の中から消え失せている。

若い人たちをそれとなく見て感じることは、非常に優秀だけれども淡泊であり、非常に正確だけれども機械的であり、非常に知識は持っているけれども無関心であり、非常に自分を大切にしているけれども孤独である：私には、そのように見えてしまう。

時代は流れて、人も流されていく。その時代、時代に振り返れば、懐かしく思えたり、ほのぼのとした人々の営みが見えてくるはずだが、私は「国鉄民営化」以降の二三年間に、それを感じない。何も国鉄がJRになったことだけが原因でないことぐらひは理解している。ただ私のように、組合運動を通じてしか世の中を見ることができないう視野の狭い者からすると、共闘・政党・権利・生き様等、そこにあつた総てを奪い去られたようにしか思えない。

譲れない原則を伝え続けて・・・

人々は、隣で誰かが困っていても罪悪感なく見過ごせるようになった気がする。そういう人々が「労働者」を語り、その集団が「労働組合」を名乗っていることに、空々しさを感じる。テレビや新聞で、悲惨な出来事が報じられると、集団で瞬間的に哀れみを語る。それは自分から距離があるからであり、仮に目の前で起きると見過ごすはずである。私たちは、国鉄闘争を本気で見つめてきたのだろうか：自問自答する・・・

国鉄闘争が熱を帯び、この闘いが日の目を見る時は、「そんなに遠くない」と闘いの始まりでは思っていた。しかし、現実には二三年の時を許してしまった。もはや赤峰さんたちの想いが完全に遂げられることは不可能になった。後は、この闘いの歴史を現在の社会の教訓とすることができののか：が問われている気がする。今よりも人間らしい社会に戻すために、国労の闘いには譲れない原則があることを伝え続けてほしい。

(昔、郵便局の組合にいたS)

普天間飛行場の閉鎖・全面返還を求める

―米海兵隊の長崎県内への移駐・移転を許さない共同声明―

沖縄県宜野湾市の米海兵隊・普天間飛行場「移設問題」に関して、長崎県内の海上自衛隊大村航空基地、陸上自衛隊相浦駐屯地に、在沖縄海兵隊の部隊および訓練の一部を移駐・移転する計画が持ち上がっていることが、昨年末からの報道等で明らかになりました。私たちはこうした動きを断じて容認できません。

長崎県内では、強襲揚陸艦をはじめ八隻の米海軍艦船が米海軍佐世保基地に配備され、空母や潜水艦などの原子力艦船が頻繁に寄港しています。在日米軍の専用施設数では沖縄、神奈川に次いで三番目に多い県でもあります。また、長崎空港の米軍機の利用回数は全国トップで、長崎港には毎年のように米軍艦船が寄港しています。

米兵による事件・事故をはじめ原潜の放射能漏れ事故、度重なる航空機・艦船の軍民を問わない施設利用によって、住民の生活や生命・財産が脅かされると同時に、制限水域の設定などで経済活動も抑制されるなど、基地あるがゆえの損害をすでに被っているのが現状です。

さらに、アフガニスタンやイラクへの侵略戦争に、佐世保の配備艦船をはじめ長崎港に寄港した艦船も参加しており、新たな部隊や訓練が加わることによって、出撃基地としての性格が強まることは明らかです。国内外にむけて平和を発信する被爆県・長崎がさらに戦争に加担し、軍事が優先されるような状況になることを私たちは断固として拒否します。

もちろん、私たちは、戦後六五年を迎えようとする今日においても、在日米軍基地の七五％が沖縄に集中し、とくに市街地の中心部に位置する普天間飛行場が「世界一危険な基地」であり、日米安保体制下において沖縄県民に大きな負担を強いていることは認識しています。

それゆえに、沖縄県民がその総意として普天間飛行場を閉鎖・返還させ、辺野古をはじめ沖縄県内での基地のたらい回しを許さないという思いを共有するとともに、この間の米軍基地の縮小・撤去を求める闘いを全面的に支持し、長崎においても沖縄と連帯する諸行動を展開してきました。しかし、在沖縄米軍の施設や訓練の本土への移転によって、沖縄の負担が軽減されるわけではありません。海兵隊の実弾砲撃演習や戦闘機訓練の本土への分散・移転後の状況をみても明らかです。

基地の縮小・撤去こそが重要であり、基地のたらい回しでは基地被害はもちろんのこと、旧態依然の軍事力による安全保障政策が継続されることとなります。「沖縄県民の基地負担の軽減」という美名によって在日米軍基地が拡大・固定化し、日米共同使用がさらに拡大することは許されません。

沖縄駐留海兵隊は日本防衛や抑止力としての存在ではない、との専門家の指摘もあり日米安保が改定されてから五〇年を迎えるいまこそ、武力で平和はつくれないという日本国憲法の原点に立ち返り、日米安保の見直しを進めるとともに、真の沖縄県民の基地負担軽減と在日米軍基地の縮小・撤去へむけて取り組むよう、私たちは鳩山政

権と与党三党に要請します。(二〇一〇年一月一九日)

【呼びかけ】

舟越歌一(市民運動ネットワーク長崎代表) 中崎幸夫(長崎県平和運動センター議長)
土井憲治(佐世保地区労働組合会議議長) 塩入高志(大村地区労働組合会議議長)

原 発 に 膨 大 な 国 家 資 金

— 東 海 村 を 視 察 —

杉森議員も所属する自治体政策研究会の東海村行政視察が十一月に行われ、議会運営、障害者福祉政策などについて説明を受けました。

東海村は日立市、那珂市、ひたちなか市に境界を接し、人口約三万七千人、面積三七・ km^2 で、日本で初めて原子の火をともした村、そして十年前に初の臨界事故(JCO)を引き起こしたのもこの東海村です。原子力の平和利用、地球温暖化対策の切り札として喧伝されている原子力発電ですが、その陰で膨大な国家資金が注ぎ込まれている実態も垣間見られます。

東海村の人口は牛久市(約八万人、杉森市議の居住地市)の半分以下ですが、財政は二〇〇九年度で一般会計が一八四億円と牛久市と比較しても遜色ありません。しかも、村民税が一四・四%、固定資産税が四四%を占め、村債は六・八%程度です。

議員定数は現在二〇人(牛久市二二人)、議会事務局は四人(同三人)プラス嘱託職員一人。特別委員会としては、各年度の予算、一般会計決算、特別会計決算の特別委員会の他、原子力問題調査特別委員会、ひたちなか地区問題調査特別委員会、自治基本条例調査特別委員会があります。

一般質問は一問一答と一括質問の選択制で、ほとんどの議員は一問一答とのこと。質問時間は三〇分、回答時間は無制限で、平均一人一時間程度だそうです。代表質問は第一回定例会(予算審議する三月議会)のみ実施し、質問時間は三〇分プラス会派の議員数×五分で、上限は六〇分。

東海村は比較的恵まれた財政のもとに、福祉政策に重点的に取り組み、「県下一の福祉のまちづくり」をめざしてきました。二〇〇九年度予算の重点施策として、後期高齢者サポート事業(保険料負担半分軽減、上限一・五万円)、介護保険利用者負担金軽減措置(一割負担の七〇%を村が助成)、妊産婦医療制限撤廃(すべての診療対象と所得制限廃止)、中学校まで医療費を無料化、九月補正で新型インフルエンザワクチンの優先接種対象者(高齢者除く)への接種無料化、など先進的な事例が続きます。二〇一〇年度はさらに、高齢者医療費負担の軽減、保育料の軽減、幼保一元化、不妊治療費の助成、東海病院の院内保育、などを検討しているとのこと。

その後、東海村総合福祉センター「絆」、総合支援センター「なごみ」を見学。総合福祉センターは延べ床面積六五三六 m^2 の中に、高齢者、児童、地域福祉、障害者、保健、の五センターが配置され、風呂や機能回復プール、食堂、喫茶室も備わり、村外からの利用者も多いとのことでした。(茨城県牛久市議 杉森ひろゆき ニュース)

大地震とハイチ

人間が自然法則に無力であった時代、もつとも恐いものに地震と雷（暴風雨）が上げられておりました。自然科学の発達は地震、そして雷の法則を解明し、今では恐れる理由はなくなりました。しかし、自然の突然の「爆発」は、現在の科学では予知できないばかりか、エネルギーを制御し人間生活に役立てるまでにはいたっておりません。

もつとも貧しい国

この数年をとつても巨大地震はスマトラ沖、四川、そして最近ではカリブ海諸国でももつと貧しいハイチに大地震が起こり、死者は二万人、ケガ人は三〇万人、家を失った人びとは一〇〇万人、被災者は三〇〇万人超もの大被害をもたらしました。中米、カリブ海諸国、ハイチを知っている日本国民は多くありません。

中米、カリブ海諸国が世界史に投げ込まれたのはコロンブスが一四九二年、カリブ海に浮かぶサンサルバドル島に到着してからのことです。カリブ海諸国は砂糖、タバコ、そしてコーヒーのプランテーション農業から奴隷貿易を最大の商取引とし、その権益を手に入れようとスペイン、ポルトガル、オランダ、フランスが一六世紀から覇を競い、ついでアメリカが一八世紀以降己れの植民地としたのです。したがって、カリブ海諸国の歴史は植民地時代（一四九二〜一七八〇年）、独立運動の展開（一七九一〜一八三〇年）、革命と反革命（一八三八〜）の時代にわかたれます。

この三つの時期、ハイチはどうであったかといえば、一六九七年にフランス領となり、一七九一年にフランス革命の影響を受けたトウサンールヴェルチュールという解放黒人奴隷が奴隷解放と独立運動を指導。彼は一八〇三年にナポレオンの討伐軍にとらえられ獄死してしまいましたが、一八〇四年カリブ海で最初の黒人独立国家として世界史に登場します。

その後のハイチはといえば民族独立運動、革命、アメリカの介入・軍事侵攻、反革命・軍事独裁のくり返しです。とりわけ一九一五年以降はアメリカの介入と軍事侵攻でハイチは独立国でありながら、アメリカの植民地とされたのです。ハイチは四国をひとまわり大きくした約二万八千平方キロで約一千万人が住みます。テレビ映像は島国で平地が多いかにもえまずけれど、南北に山が連なりキューバのように平地は多くありません。少ない平地にスラム街が広がっているのがハイチ、中南米諸国おなじみの光景です。

復興より治安に重点

地震で壊滅的被害をこうむったハイチに、米国は空母、海兵隊等一万一千人の軍を派遣しました。自然災害なのに、なぜ軍隊派遣なのでしょう。すでに述べたことにも明らかですが、ハイチは民族独立運動の事態に直面しているからです。現政府は無能、

解決能力はありませんから、新たな民族独立運動が起こることは必至です。その予防策として、ハイチ政府は「刑務所が破られ極悪人が逃亡、彼らは治安を乱す。その鎮圧に米軍の力を借りることが必要」と云っています。実際は、ハイチ政府が本当の極悪人を放任しているのです。

ハイチ政府は腐敗と汚職でいっぱいです。彼らは地震にいたるまでも国連軍に治安をまかし、支援を自分の懐に流し込んできたのです。自然災害の今、今のハイチに必要なことはなんでしょうか。兵士でなく、災害復興のプロ集団と医師以外にありません。日本は災害後二週間もの後、PKO部隊約三〇〇人派遣を決定、二月八日ハイチに向け飛び立ちました。地震による家屋倒壊、生き埋めから二〇日後のことで、PKO部隊は①倒壊家屋の整理、②道路等の復旧を任務とするとのこと。これらは口実で、実際は自衛隊が軍隊としてこれからの海外出兵への予行演習としてあるだろうことです。

ハイチで、なぜ「軍隊」なのか、理由はすでに述べたことにあります。ハイチ国民はアメリカに「異和感」を、ハイチ現政府には「死んじまえ」との気持ちをもっています。ハイチは、ハリケーン等の自然災害はいつものこと、しかし、今回の地震は「国家崩壊」、したがって「新国家」誕生にも結びつきかねません。「新国家誕生」を押さえ込むのが米国一万一千人派遣です。米国、国連、日本はハイチ国民の生活より、治安に重きを置いているのです。

帝国主義のこれら諸国に比べ、キューバ、ベネズエラの支援は地に着いたものです。キューバはハイチに四〇〇人の医師と医療労働者を無償で支援していますし、地震発生直後一千人以上の医師からなる「ヘンリー・リーブ」といわれる国際救助隊がハイチに飛び出して行き、多くの人命救助に力を発揮しています。ベネズエラは「仮設住宅村シモン・バリバルNo.1」の建設をはじめたと伝えられます。（編集部）

もう一歩前に進んで行動

一月三〇日に全国ロードショーとして一斉に公開された映画「おとうと」の絵本版にこんな場面があります。『わたしが出てきたときは、お父ちゃん、うちにおらんかったで。今日はデモの日やって』

場面設定は一九六〇年です。従ってデモとは、その年の安保闘争のことです。私が関わったのは、それから一〇年後の一九七〇年の安保闘争です。そして今、沖縄の基地問題を考える時、避けてはいけけない問題があるように思います。普天間飛行場移転先を県外・国内とする論議の前に、日米安全保障条約の事が論議にさえ上らないことが、どうしても気になります。なぜ日本に米軍の基地が必要なのか、基地騒音や危険の問題、犯罪の問題、一番大きいのは思いやり予算、この問題を考えるとき、何か大切な論議が欠けていると思います。

先日、「普天間飛行場の閉鎖・返還と海兵隊の米国への移転を求める、自治体首長・議員の共同声明」への賛同署名運動の参加要請がありました。これまでは私自身、

表に名前を出すことは避けてきましたが、協力要請に応え加わることにしました。でもそれだけに止まることにはしたくありません。自分の位置でできることをと思っています。

もう一歩前に進んで、行動します。これが私の今年の目標です。これまで以上に動き回ろうと思っています。頭の中だけで考えるのではなく、実際に体を動かし、現地へ出向き、直接話を聞くことを、これまで以上にしていきたいと思っています。

ある校長は、私の学校訪問をすぐに市教委へ報告しました。ある校長は、私へお茶を出すなど指示しました。ある校長は、私からの電話はすぐに報告するように言いました。そんな信じられないことがあるんですよ。でも良い勘してますね。何もなければ行くはず無いんですから。きっと何か心当たりがあるはずです。従って校長さんの期待に、お応えしなければと思っています。でも、課題がない時にだって組合員や、知り合いの人に相談に行ったり、会いに行くこともあるんです。そんな時には、校長室へも挨拶に行っています。その時はご安心ください。

事件は現場で起きています。市役所の十三階へ相談する前に、現場をよく見ておかねばというのが、私の思いです。

各種の研修会へ参加しています。学力テスト日本一と言われている、秋田県と福井県の教育長をパネラーにしたシンポジウムがあると聞き参加しました。また、議員団の西日本研修会があり、これにも参加しました。一月二十九日には、湯崎知事の講演を聞きに、竹原市での研修会に参加しました。

二月には、広島市で千葉県野田市長を迎えての公契約条例についての学習会があり、それにも参加する予定です。これまではあまり外へは出ていませんでしたが、これからは機会があればなるべく参加しようと思っています。報告を兼ねて、地区支部・支区執行委員会へは、まとめを出そうと思っています。(広島県福山市議 西本 章)

◇ 読者からのおたより ◇

新幹線ボルトつけ忘れ事件 1・30集会の資料、ありがとうございます。国労関係の資料を戴いた日に、新幹線のボルトつけ忘れの事件が起こってましたね。今後ともよろしく。(滋賀・I)

編集部より JRだけでなく、トヨタもそう。効率だけ。これじゃ事件おきないわけありません。茨城ユニオンで会社前で抗議行動 長引く不況が続く中、派遣や非正規雇用で働く労働者から賃金の未払いや会社の一方的な都合による雇用止めなどがマスコミを通じて報道されていますが、県内でも雇用を守ってほしいと相談が各労働組合に寄せられています。一人でも加入できる労働組合として活動している「茨城ユニオン」にも多くの相談が寄せられ、団体交渉などを通じて解決に取り組んできているが、「茨城ユニオン」では労働者派遣法違反や賃金を未払いにするなどして誠意の無い企業に対し、会社前で抗議行動を行なった。(つくば市議 金子かずお)

編集部より 正社員の労働条件、賃金もけつしてよくないことの主張も必要と感じるこの頃です。「鳩」と「一郎」 よくもこんなにも長く続くものかとあきれれるほどの自民党政権がやっと終わり、「生活が第一」公約の民主党に交代しました。しかし公約はウソでした。鳩山も小沢も庶民の生活のことなど眼中にない人物でした。とくに小沢はエリート意識のかたまり。エリートゆえに庶民を平気で差別し、小心者ゆえに常に周りを威嚇したがる。底辺で生活し、苦しんでいる私たちが正々堂々声を上げることが大事です。(岡山 堀井 進)

編集部より 労働者の生涯賃金の数倍、数十倍の金を「さも当たり前」というように動かし、当

り前”と思ってる。これじゃ自民と変わらない。

豊かさ 「一年の計は元旦にあり」。しかし、どれだけの人が計画を立てられるのか。完全失業率五・二%、失業者数三三二万人、非正規労働者は一七四三万人、年収二〇〇万以下のワーキングプアは一〇〇〇万人超。自殺者三万人以上一二年連続、生活保護は一二〇万世帯を突破。とても「おめでとう」という気分にはなれない。

昨年五月、キューバを訪問した。そこで目にしたのは街ゆく人々の底抜けの明るさ。キューバは豊かな国ではない。しかし街角には音楽が流れ人々もそれを楽しんでいる。テンポの速いリズムとは裏腹に人々の動きはゆっくりとしてしている。早足で歩くサラリーマンの姿はどこにも見られない。改めて「豊かさとは何か」を考えさせられた旅だった。

編集部より キューバってそんな国。中南米も。日本が異常。
(千葉 鳩川 静)

残念 終結を目前にして、旭川の木工をやった藤原君、佐賀の松尾、二人ともヤンチャな青年で愛する人たちで逝ってしまったね。
(旭川 菅原 須磨子)

編集部より 過日、Y氏から近況聞きました。一月にはお世話に。さらにお元気で。三月楽しみ。カンパです 購読料送付いたします。残金は少々ですがカンパです。弱者の声、いつも代弁する「通信」。いい世の中にしたいいものですネ。
(武蔵野市・兼子和之)

編集部より ご厚情に感謝です。

生活たいへん マクロ経済スライドとかで年金はどんどん減るし、手伝っていた保険代理店は保険会社から一方的に手数料を三分の一に減らされました。
(東京 N)

編集部より 原稿よろしく。落手感謝です。

たいへん 組合は民主党政権を支える組合に。免許更新制も学力テストも廃止、抽出方式に変えるのだからといいますが、職場はやっぱりたいへん。
(兵庫・K)

編集部より 北海道の選挙違反事件。新たな展開です。

二〇一〇年 ご苦労さま。二〇一〇年は働く者にとって薄日がさすといいいのですが。
(大阪・K)

編集部より 「薄日」なんておっしゃらず酷暑の年にしましょうよ。
振り込みます いつもお世話になっております。遅くなってしまいました。振り込ませていただきます。
(千葉・O)

編集部より こちらこそ、いつもお世話になって。勉強会、気分引き締めて！

評価制度 教職員評価制度で新たな展開がありました。当局は一人も許さない態度でのぞんできました。厳しい状況ですがなんとかふんばりたい、またレポートします。
(宮城・A)

編集部より レポートお願いします。楽しみに待っています。お身体大切に。

カンパです 購読料一年分として、残りはカンパ処理。よろしく。
(東京・S)

編集部より カンパに感謝です、これからもよろしく。

財産 国鉄に二〇年、道に二二年、今春退職を迎えることになりました。国鉄二〇年で首(清算事業団)、途中で首にならなかったものです。でも充実していた、本当に仲間がいた。財産です。続けれるところまで購読したいと思えます。少ないですが「通信費」の補助に。(北海道 伊藤制儀)

編集部より 嬉しいお便り、心から感謝です。自由な時間がふえますね。

印象的 昨年十一月、お世話になりました。その中のマルクスの言葉「強い者が社会を変革するのではない。弱い者が強くなって、はじめて社会変革することができる」が印象的でした。新社会党を強くするためには何をなすべきなのか、何ができるのかというところが今年の課題。(兵庫・K)

編集部より 私、もっぱら古い古い本を読みあさっています。マルクスとエンゲルスの往復書簡、マルクス、エンゲルスが同志、友人にあてたのは知識の宝庫です。
(千葉 増田 都子)

感謝 一月一五日号に拙文をのせていただきありがとうございます。

編集部より 少し縮めました。あれでご満足いただけましたか。

「集い」二年め 購読料一ヶ年分送ります。残金少しで申し訳ありませんが、カンパとして扱って下さい。若い仲間との月一回の集いも二年め、集まる事の楽しさを感じています。
(千葉・O)

編集部より 昨年の団結まつりでは「安ちゃん」と、八王子では毎月「淳ちゃん」と勉強したり飲んだり、だべったりです。

メール 組合専従を決意したMさんへのメールを社会通信に込め送りたいと思います。「通信」を一年分お願いします。残りは少しですがカンパです。
(鹿児島・Y)

編集部より 嬉しいお便りに感謝です。私もカツを入れなくちゃ。